

大阪工業大学工学部 学生員 ○山村 和也

大阪工業大学工学部 正会員 岩崎 義一

1. 目的：技術革新や国際化等の変化に伴い産業構造の変化が急速に進んでいる。とくに、日本工業の基盤的技術を有する中小零細工業への影響は大きく、当該工業の集積市街地いわゆるまち工場地区は厳しい環境に晒されている。こうした地区工業の問題を打開するために、施設や設備の導入に対する補助や低利融資等の政策的対応も講じられてきているが、その効果も明らかでない場合が多い。こうした中で、貸工場を利用することにより既往の不況に晒されつつも細々ではあるが生き抜く工場群がある。本研究は、貸工場の地域工業に対する役割と整備計画の基本的条件を明らかにすることを目的に、貸工場整備の実態、まち工場の利用実態と利用上の意識構造等について実態調査を行った。なお本稿では、わが国で最も中小零細工場の集積密度の高い東大阪市において、戦後大阪市で急成長をみた工業の展開による移転立地先となり、早くから貸工場が受け皿となって集積をみてきた市内の高井田地区を調査対象地区(図-1)とし、民間連棟式貸工場に高い密度で入居している工場に対してアンケート、ヒアリングを行った(2001年10月～12月実施)。

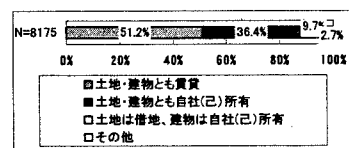
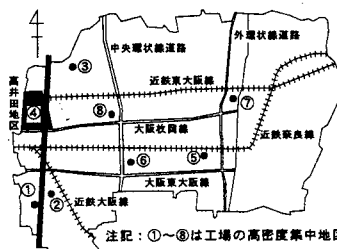


図-2 工場の所有形態

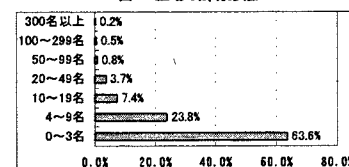


図-3 従業員構成比

2. 貸工場利用の実態：本市における工業事業所数は昭和40年代前半から50年代にかけて、大阪市内からの流入や独立開業により急増したが昭和58年の10,033をピークに平成2年より減少傾向に転じ平成12年現在8,175である。現在でも工業集積の高い本市は、著しく工場の集積密度の高い地区があり、その地区は①相田、②衣摺、③楠根、④高井田など8地区である(図-1)。こうした中で、工業事業所の51.2%にあたる4,182件は建物が賃貸であり、うち3,859事業所は製造業である(そのうち61.7%は連棟式貸工場(以下貸工場という)に入居している)。貸工場に入居している工場の従業員規模別事業所構成比をみると10名未満の事業所でほぼ9割を占めており、殆どが零細工場により利用されていることが分かる(図-2, 3)。

3. 貸工場利用に係わる意識の実態

3-1 利用実態：貸工場の各種機能の

満足度をみると「荷捌き場」、「駐車場」はほとんど設置されていないにもかかわらず、不満足が極めて少ない(図-4)。これは別に駐車場を借りていること、向かい

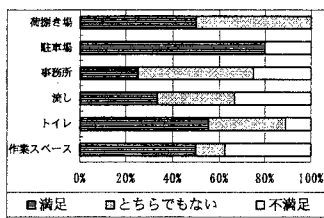


図-4 貸工場の各種機能に対する満足

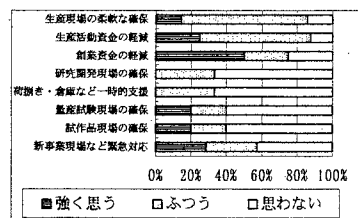


図-5 貸工場が果たす役割の評価

合わせになっている工場の前面道路が一時的に機能代替を果たしていることによる。「事務所」に関しても基本設備には含まれないが、天井が高いため中二階を後付けで設置している工場が多いためである。

Kazuya YAMAMURA, Yoshikazu IWASAKI

次に、貸工場が果たす役割についてみると、強く思うとする項目は「創業資金の軽減」が最も高く、「生産活動資金の軽減」「新規事業現場など緊急対応」も若干高い。一方「研究開発現場の確保」や「荷捌き・倉庫など一時的支援」などについては評価されていない(図-5)。つまり、貸工場はベンチャーに取り組む際には重要な存在であるが、研究開発や倉庫など他の利用に関しては評価されていないことが分かる。また貸工場を利用する主たる理由は、自己所有では費用がかかりすぎるためとする意見が極めて多く(図-6)、先にみた貸し工場が果たす役割と概ね一致している。さらに貸し工場の利用による有利な点は、「技術の相互活用」、「設備の相互活用」の順に多く(図-7)、隣接する工場との親密なネットワーク形成に有利となっていることがわかる。

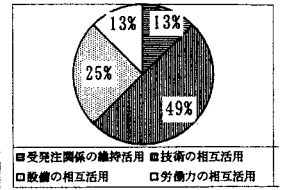
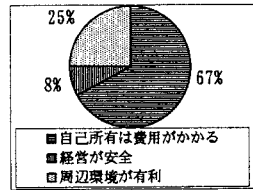


図-6 貸工場利用の主たる理由

図-7 貸工場の利用による有利な点

3-2 貸工場別入居企業の評価： まち工場が集積している高井田地区には多くの民間貸工場が存在する。この貸工場は単独式と連棟式に大別され、当地区における連棟式貸工場は図-8のように分布しており、一つの場所に2～4棟の貸工場が存在する。今回の調査では5箇所(図-8のA～E地点)の貸工場に入居している工場に、直接訪問して貸工場の利用に係わる主なメリット・デメリットについてヒアリング調査を実施し、表-1に総括としてまとめた。これらの地区では二つの棟が向かい合っており(図-9)、A～D地点は間の道路に他の交通はなく、E地点のみ間の道路に交通がある。これによると、創業時などにおける資金面での軽減のほか、ビジネスにまでは直結しないが作業環境改善など相互協力や生産技術の相互融通が行われており、さらには仕事を超えて日常の生活に根ざ

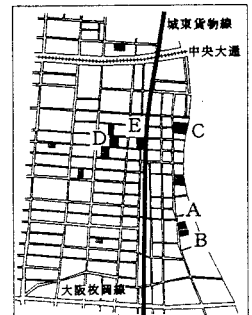


図-8 高井田地区における向かい合わせ型連棟式貸工場の分布



図-9 調査対象地区の連棟式貸工場間の様子

した親密な付き合いもある。また前述の前面道路が一時的な荷捌き場、駐車場として利用できるメリットもA～D地点の工場は有している。E地点では前面道路を共有できないためそのメリットは得られていないようである。このように連棟間の道路に他の交通のない向かい合わせ型連棟式貸工場の地区はまち工場にとって多くのメリットを享受できる一つの産業クラスターを形成しているといえよう。デメリットとしては、多くの工場が老朽化の問題を抱えている。

4. まとめ： 多くの貸工場が設置され、そこにまち工場が入居している工業集積地区では、この貸工場が入居工場間の取引、技術、情報等のネットワークを形成し産業クラスターを育て形成する役割を担っており、社会的公器として位置づけられていることが明らかになった。老朽化対策等の整備が計画的に進められれば、一層の産業集積形成の苗床として機能していくことが期待される。単独式貸工場の役割の実態調査を含め、これからについては今後の研究課題としたい。

表-1 向かい合わせ型連棟式貸工場の詳細とメリットとデメリット

地	工場	業種	従業員	作業スペース	メリット(○)・デメリット(×)
A	A-1	機械部品組立	1	10	○ 仕事に付随する設備の確保をもらった
	A-2	機械部品組立	1	20	○ 創業資金、活動資金の軽減
	A-3	機械部品組立	5	10	○ 前の通路与向かいの向きに合う
	A-4	研削加工	1	10	○ 近隣住民、工場との関係が良い
	A-5	研削加工	1	10	○ 老朽化が激しいが設備が良い
B	B-1	研削加工	1	10	○ 仕事に付随する作業を手伝ってもらった
	B-2	研削加工	1	10	○ 設備が安全
	B-3	研削加工	1	10	○ 仕事に付随する設備の確保をもらった
	B-4	研削加工	1	10	○ 近隣住民、工場との関係が良い
	B-5	研削加工	1	10	○ 老朽化が激しいが設備が良い
C	C-1	研削加工	1	10	○ 仕事に付随する設備の確保をもらった
	C-2	研削加工	1	10	○ 近隣住民、工場との関係が良い
	C-3	研削加工	1	10	○ 老朽化が激しいが設備が良い
	C-4	研削加工	1	10	○ 仕事に付随する設備の確保をもらった
	C-5	研削加工	1	10	○ 近隣住民、工場との関係が良い
D	D-1	研削加工	1	10	○ 仕事に付随する設備の確保をもらった
	D-2	研削加工	1	10	○ 近隣住民、工場との関係が良い
	D-3	研削加工	1	10	○ 老朽化が激しいが設備が良い
	D-4	研削加工	1	10	○ 仕事に付随する設備の確保をもらった
	D-5	研削加工	1	10	○ 近隣住民、工場との関係が良い
E	E-1	研削加工	1	10	○ 仕事に付随する設備の確保をもらった
	E-2	研削加工	1	10	○ 近隣住民、工場との関係が良い
	E-3	研削加工	1	10	○ 老朽化が激しいが設備が良い
	E-4	研削加工	1	10	○ 仕事に付随する設備の確保をもらった
	E-5	研削加工	1	10	○ 近隣住民、工場との関係が良い

〈参考文献〉「東大阪市域における貸工場の空き状況に関する調査」 東大阪市、東大阪市商工会議所 平成13年3月